

林檎

岩手Mac友の会

Vol. 1, No.6 1989.12.7

Iwate Macintosh Funclub

MMM続報

秋田マックユーザー会の武田さんから9月に開催されたMMMの感想が届きました。前号には間に合いませんでしたので、ここに紹介いたします。

MMMは正にMacその物でした。

UserfriendlyでPerformanceにあふれ、小粋で都会的なパーティーを充分楽しませていただきました。会長さんはじめ友の会の皆様本当に有難うございました。

イヤー参加メンバーの素晴らしさには驚きました。日経の林さん、バッチャーの川村さんを目の当りにして感激でした。それから、こんなことを言うとは大変失礼かと思いましたが、野村会長さんはじめ、徳富先生、谷口先生他、すばらしいキャラクターの面々で感心させられました。

当方MACCは、さしずめLowerCaseのキャラクター集団でなところでしょうか。友の会を見習って頑張りたいと思います。

今後共お付き合いの程宜しくお願い申し上げます。

武田 勤 (MACC)

お隣りの秋田でも活動が活発になる事をお祈りすると共に、今後ますます交流を深めていきたいと思ひます。

野村

例会便り

やっと例会に出席することが出来ました。今回は参加者が15名と、まあまあの出席でしたが、2時間30分が、あっというまに過ぎてしまいました。

内容

11月の例会は、木津屋さんが持ち込んだMacII cxに、私が持参したCD-ROMドライバー(Apple CD SC)を接続して、Samole CDのデモや、MMMでApple Computer Japanの加藤さんからいただいた、Excelent CDと、私が持参したBMUG PD-ROMに入っている数百メガバイトに及ぶパブリックドメインのプログラムのコピーを中心に盛り上がりしました。

Samole CDのデモではMacII cxのカラーモニターから出力される画像と、CD-ROMに接続されたステレオラジカセから聞こえる迫力サウンドに、参加者から感嘆のタメキが何度も聞こえました。

野村

忘年会

少し気の早い忘年会を、セミナー付きで、しかも泊まり込みで開催しました。皆さんには会報の最後のページにIMF All night seminarerとして申込葉書付きでご案内致しましたが、「忘

年会」と書くのを忘れてしまったため、その主旨がうまく伝わらなかったようです。不手際をお詫びいたします。

にもかかわらず、ゲストを含めて21人の参加があり、名にたがわず朝まで盛り上がってしまいました。参加できなかった方は本当に残念なことだったと思います。

幹事や準備をして頂いた方、ASCIIおよびSRAからのゲストの方々に厚く感謝いたします。

野村

Inside

| | |
|----------------|----|
| Meet the Mac | 2 |
| English Column | 4 |
| How to scan | 5 |
| IMF's PDS | 6 |
| 林檎ギャラリー | 8 |
| 茶房 | 9 |
| 私のMac Life | 10 |
| 山の花 | 12 |
| 東京通信 | 13 |
| 盛岡BBS Now | 14 |
| きままなコラム | 16 |
| 余計なお世話 | 18 |
| お知らせ | 19 |
| 会員名簿 | 19 |
| 編集後記 | 19 |

Meet the Mac

今回のMeet the Macは、いつもと趣向を変えて、Macを持っていない方々に登場していただきました。ここが、ユーザー会と違う友の会のいいところだと思います。皆さんの周りで、Macは持っていませんけれどMacが好きだという方がいらっしゃるいましたら、例会にお誘いください。

Macとの出会い

私がMacに初めて会ってからもう3年になります。私は典型的なアナログ人間だったので（今でもそうなのですが…）デジタル機器については、時計でさえも拒絶反応を示していました。そしてさらに悪いことに「コンピューターを扱う人=ネクラな奴」という概念さえ持っていたのです。そんな私が友達の家遊びに行った時のことでした。

そこに居たのです。

「なんて変なテレビなんだろう！」

というのが、ちらっと見た私の感想でした。

その友達というのが、髪の毛は金色に染めているし服にはいつも鎖をジャラジャラとつけているロックバンドの一員だったので、変なテレビでも別に不思議ではありませんでした。しかしそのテレビをよく見るとチャンネルがどこにもないので、彼にその操作方法を聞くと、「これはテレビではなくてパソコンだ！」と言うのです。

あっけにとられている私を尻目に、彼はマウスとキーボードを操作して指一本触れずに彼のシンセサイザーを演奏させたのです。その操作のシンプルさから「私でもできるかもしれない。」そんな錯覚を私に感じさせたのです。

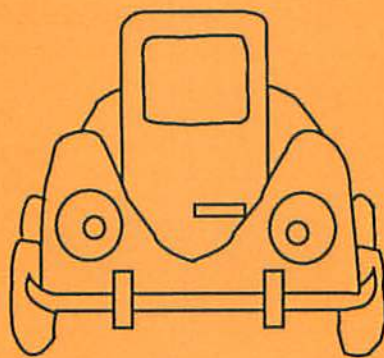
それから約1年後（Macの記憶もほぼ消えかかって来た頃）都内某国立大学の研究室で再び運命の出会いをした

のです。ミニコンが2台とPC98が3台あるその研究室でMacは主にゼミに使われていたようです。使っているゼミ生に聞くと、「とにかく、すごい」の一点張りでしたので「私も使いたい」と思ったのですが、当時はとても高価で、私には到底買うことができる品ではありませんでした。

そして岩手大学に来てから教育工学センターで3度目の出会いとなりました。それ以降ちょくちょく工学センターに出没しては、Macを使わせていただいているという訳です。

以上が私の"Meet the Mac"ならぬMac遍歴ですが、ここで少し私のMac観について書きたいと思います。

Macはビートル



今でも町でしばしば見かける車にVW社のビートルという車があります。1936年生まれこの車は当初「不格好」「醜い」などの罵声をあびながら40年以上も生産され続け、生産中止となった今でも、人々に愛されています。Macもこの車に少しばかり似ているような気がします。

最初はやはり「高価な大人の玩具」などと悪口を言われたらしいですが、今ではそのユニークなスタイルと格別の操作性で人々を魅了し、パソコン史上に確固たる地位を築き上げてしまいました。自動車がそうであったようにこの先パーソナルコンピューターはもっと進化し、秀れた機種が次々と発表されると思います。しかし、Macは愛されると思うのです。あるアメリカの社会学者は「ビートルを購入することは、他のビートルのオーナー達との交友関係をも手に入れることである。」というようなことを著書の中に書いていました。

Macの場合も全く同じようなことが言えると思います。私もIMFに入ってから様々な人からMacを通して様々なことを教えられました。私とMacの出会いは、私と様々な人達の出会いだとも言えます。Macについてはほとんど無知の私ですが、どうかみなさんよろしくお願いします。

By. 浅野 恵治

人間に歩み寄ったコンピュータ

Macを持っていない、すなわちまだ、Macに正式にmeetしていない私が、なにゆえにか、

"Meet the Mac"

を書くようにと仰せつかりました。「持ってなくても、友の会に出ているれば、Macの事はよくわかっているはずだ」という理由からかなとも思いましたが、お恥ずかしいことに欠席することが圧倒的に多くて、いやはや困ったものです。

そんな訳で、これから述べることは、私がMacにどのように出会ったか、ではなくて、「まだ見ぬMacに寄せる私の片思い」とでもいうものを述べることになりそうです。

思い出してみますと、私は今ではNECの9801というパソコンに関する権威であるといった顔をしていますが、じつは、9801に触れる以前の1986年の暮れにMacに瞬間的にはあれ接触していたのです。うちのかみさんの友達にリングというのがいて、彼女の家でMacを触らせてもらったのが、パソコンというものにそもそも触れた初めての経験だったのです。

で、どんな感じだったかという、マウスと呼ばれるものがうろちよろしているうちに画面がいろいろ変わって行きます。

「ふーん、こんなもんなのか」とたいして感激はしませんでした。

パソコンに興味を持ち出していた私は、1987年になって最も手軽に買えるというただそれだけの理由から、9801を買いました。

元々コンピュータが好きになる性格を持っていた私は、色々なソフトを集めて、どんな事ができるか、いろいろ試し始めました。

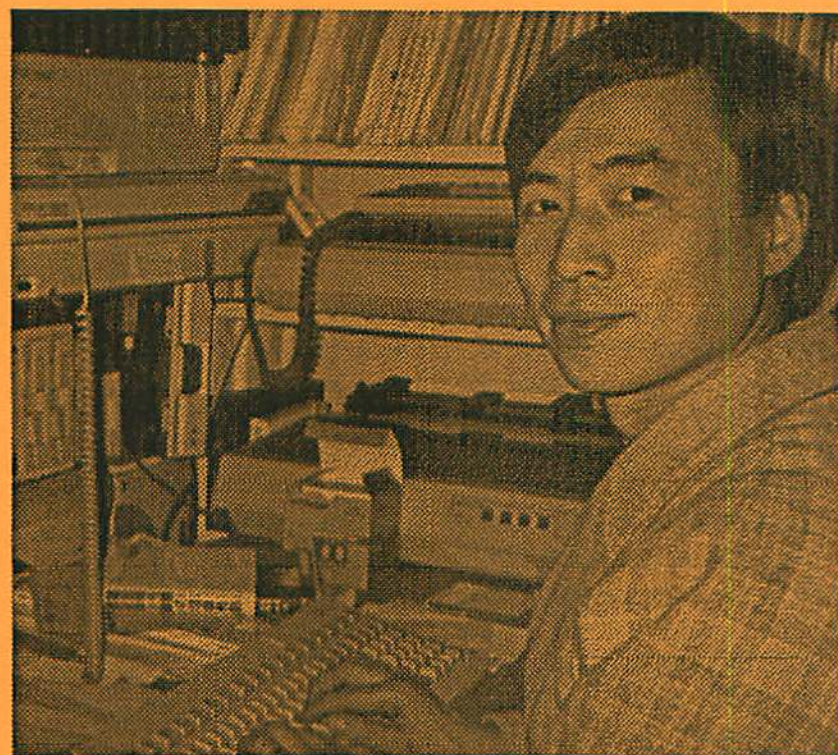
9801のことはあまり御存知ない方もいらっしゃると思いますので、少

し説明いたしますと、9801ではたいてい画面に

A>

というプロンプトと呼ばれるものがぼつんと表示されるだけです。

我々人間が、それぞれのソフトはどういう言葉をキー入力すればどんな事をしていただけるのかを勉強して、彼らの理解できる言語を使ってお願いしなければなりません。一字でも間違えればおしまいです。



ソフト毎に使う言語が違うことはいうまでもありませんが、それだけではなく、データの形式も違って、ソフト同士での話しもなかなか通じません。ソフト間でデータを共有するための翻訳ソフトもありますが、数多くないし、面倒です。

1988年になって、Mac友の会にMacへの興味から参加するようになった私は、同じ研究室のMさんや、Kさんの持っているMacを近くで見

れることもあって、次第にMacに対する理解を深めて行きました。

9801で数知れぬ苦勞を重ねた結果、さすがのコンピュータ狂いの私も9801の使いにくさにうんざりし、Macはいかにユーザーが使いやすいように本当に考えて作ってあるのかということを感じました。

コンピュータの仕組みを理解するには原始的なパソコンである9801はむしろMacよりわかりやすいの

で、9801を買って後悔しているわけではないのですが、Macが安くなってきたので、遂に私にもMac (plus) が買えることになりました。

片思いの願末がどうなるのかはMacを買ってからご報告いたすことになりましょう。

By. 高島 浩一郎

English Column

Keep Climbing.....

...by Richard L. Lammers

In the June issue of MacNews I wrote of the need to keep on dreaming and I said that 'he who has no dreams may be said to be dead already'. Reference was made to the song "Climb Every Mountain" from Rogers and Hammerstein's 'Sound of Music'.

Recently I read about a person named Hulda Crooks*. You may remember hearing about her in July of 1987 when she became the oldest woman and oldest American to climb Mt. Fuji. Hulda first began climbing mountains to regain her health. Her health had gone bad while working and going to school at the same time, as happens to many youth nowadays. But it took some years for her to fully recover from a serious attack of pneumonia.

When she first started climbing she began to notice that at lower elevations the trees stood straight and tall but at higher elevations, where the winds are stronger, the trees adjusted...first they leaned slightly, then a little higher they bent and finally they were lying almost prostrate, but their heads were still pointing toward the summit. Seeing how the trees adjusted to the winds and the storms...gave her courage and strength to face times of stress and grief in her own life. Especially the time when her husband died of heart failure.

One day she set a goal for herself. Some day she would stand on the highest piece of real estate (property) in the continental (mainland) U.S.A. She first accomplished this dream at the age of sixty-six. Having once experienced the thrill of being at the top of Mt. Whitney she has continued year after year to climb and has succeeded 23 times since that first attempt.

She has a special message for us all. For us as human beings, "there is only one body per customer, and that's it. No new purchases are allowed (or even possible). We can't even trade in the badly worn body. The best that doctors can do is patch it up here and there a little. And there's only one lease on that body. We can lengthen its life or shorten it. We can upgrade its quality, or run it into the ground. It's largely a matter of our own personal choice."

Hulda's determination, at the age of 92, "to keep climbing, as long as she can walk" is an example for all of us as we face the many 'mountains' in our daily lives.

* Mature Years - Spring 1989 - UMC Publication

A LESSON FROM AN EARTHQUAKE...

Earthquakes have been much on our minds in recent weeks. It wasn't long after the San Francisco earthquake when we heard about an earthquake in China and not long after that when we were shaken up here in Japan.

Newspaper articles related to the San Francisco earthquake kept telling how people helped one another. At a time like that only one rule applies: "Wherever there is life that life must be saved." The color of skin, the religious belief or other ideology of either the victim or the rescuer makes no difference. The newspaper article telling about the rescue



of a six-year old child whose dead mother's body had to be cut into two in order to rescue the child and whose own leg had to be cut off in order to save the child will long remain in my mind.

Reading the earthquake news reminded me of a story

which comes out of Jewish tradition. A Jewish Rabbi (teacher), probably having talked about the poor human relationships between the different tribes and nations of his day, asked his students, "How can you tell when the night has ended and the day is on its way back.?"

One student answered, saying, "Could it be when you can see an animal in the distance and tell whether it is a sheep or a dog?"

"No", answered the Rabbi.

Another student asked, "Could it be when you look at a tree in the distance and can tell whether it is a fig tree or a peach tree?"

Again the answer was, "No."

"Then, what is it?", his students demanded.

The Rabbi answered, "It is when you look on the face of any woman or man and see that she is your sister and he is your brother. Because if you cannot do this, then no matter what time it is, it is still night."

Today we might say it this way....'when you can look into the face of any woman or man, whether that person has a Mac or an IBM or some other machine, and you can look into that person's face and see that she/he is your sister/brother. If you cannot do this, then no matter what time it is it is still night.'

3 00DPIのLaserWriterNTX-Jを使って、どこまで綺麗な写真を描き出せるかということ、編集委員の皆さんと再検討してみたところ、ある程度の指針めいたものが得られましたので、報告いたします。

下の各写真は、LightningScanで取り込む時に、DPIを変えている意外、すべての設定を同一にしてあります。

左端は顔の幅が6cmの写真原稿を取り込んだもの、中央は顔の幅が3.5cm、右端は時計の幅が8.5cmある写真原稿を取り込んだものです。どの列でも下に行くほど取り込み時

のDPIが大きくなります。また、写真の中の数字はfileの大きさです。中央の写真は顔以外の部分も取り込んでありますので、原稿の大きさの割には、大きめの数字になっています。

顔の横幅が6cmもある場合、どの読み取りでも大差ありませんが顔の幅が3cmの場合は、DPIが小さい場合、明らかに写真のキメが荒くなります。では、写真原稿が大きければ、DPIを大きくしてスキャンすることが無意味かといいますと、時計の文字盤を見ればわかりますように、やはりDPIが大きい方が、印刷精度が良くなることがわかりました。

6cm
face wide

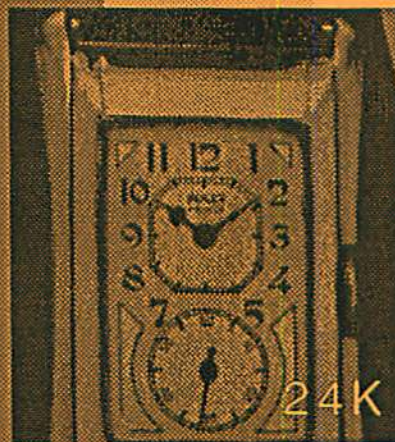
3.5cm
face wide

8.5cm
watch wide

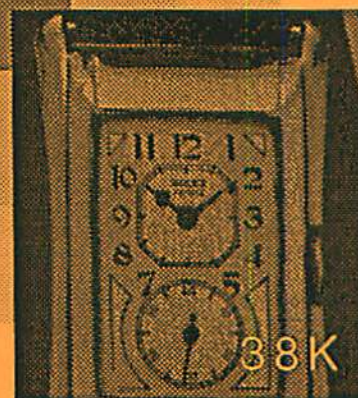
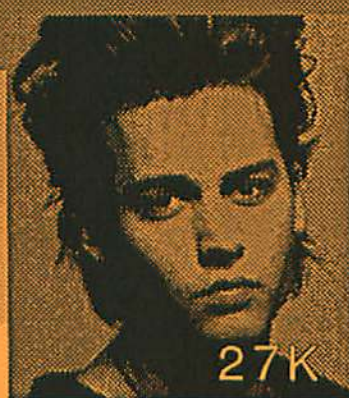
200
DPI



300
DPI



400
DPI





For Iwate Macintosh Fun club

Mac in Talk
LogBook

我々岩手 Macintosh 友の会の会員によって作られ、会員に無料で提供されているソフトウェアを紹介するページを設けることになりました。

Macintoshの本国アメリカでは、皆さんもご存じのように、Macintosh用の Software が数多く作られ、その大部分は Public Domain に提供され、我々ユーザが自由に使用できるものです。

Macintosh の Software は、製品として売られているものよりも、むしろこのように自由に使えるようになってきているものの方が多いのは我々ユーザにとって大変ありがたいものです。

しかし、自由に使えるソフトウェアだとしても、使う側のマナーも大切だと思います。たとえば、プログラムを自分で改造したものは、自分の責任で使用すべきもので、他人にコピーしてあげるときは、オリジナルを完全な形で提供してあげましょう。

また、バグや改良点に気づいたら報告してあげることも重要なことですね。

さて、前置きが長くなりましたが、今回は作成順ということで私が作成した「Mac in Talk Logbook」を紹介いたします。

Mac in Talk Logbook は HyperCard のスタックウェアで、私達がお世話になっている盛岡市実験パソコン通信のBBSの中の掲示板「Mac in Talk」に書き込まれたメッセージを、1つの書き込みを1枚のカードに整理し、タイトルの一覧表で検索できるように整理するものです。これは私がHyperTalkを学習するための練習用に作成したもので、恥ずかしいのですが口火を切る意味で紹介いたします。

このスタックウェアを開くと最初にあらわれるのがこの大きく表示されている画面です。(最新のバージョンでは右のように About が約2秒間表示され、バージョンを示すようになっていきます。また、画面中央上の Mac in Talk LogBook と書かれているところをクリックしても About が表示されます。この場合は同じところか、About の Box ををクリックするまで表示が消えません。)

ヘルプスタック

このスタックには、操作を説明するためのスタックとして「Mac in Talk Help」が付属しています。これは特に開かなくても、LogBook の方の Help ボタンを押すことで呼び出されるようになっています。しかもこの場合、後で述べる3種類のカードのうち、自分が現在開いているカードの説明が直接開くようになっています。

Helpに入ると、下の画面のように、メニューバーが消えて、End of Help のボタンがあらわれます。これが Help に入ったことを示していて、このとき、ボタンを押すと、本来の機能ではなく、そのボタンを説明するフィールドが表示されるようになります。



す。
表示された説明は、そのボタンか、そのフィールドをクリックするまで表示されます。

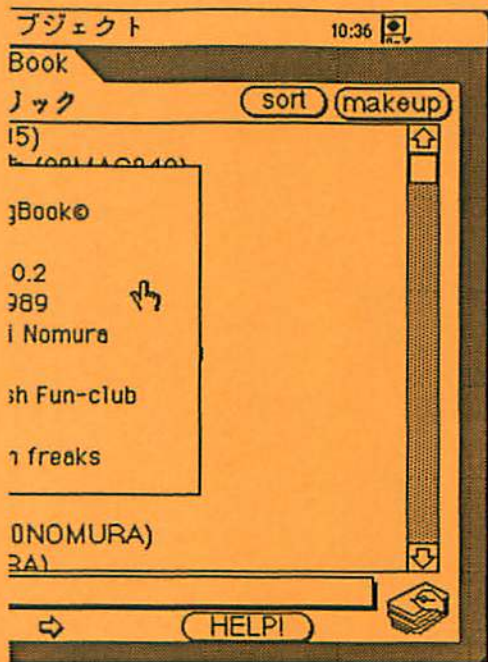
End of Help を押すだけで、前に自分が開いていた所に戻りますので安心して Help してみてください。

Help の中では (メニューバーが表示されていないとき) は、どのボタンを押してもデータスタックが書き替えられたりしませんので、気軽にあちこちボタンを押してみてください。

使ってみる前に

このスタックウェアの最新バージョンは 2.0.2 です。(試しに Mac in Talk LogBook と書いてある所をクリック





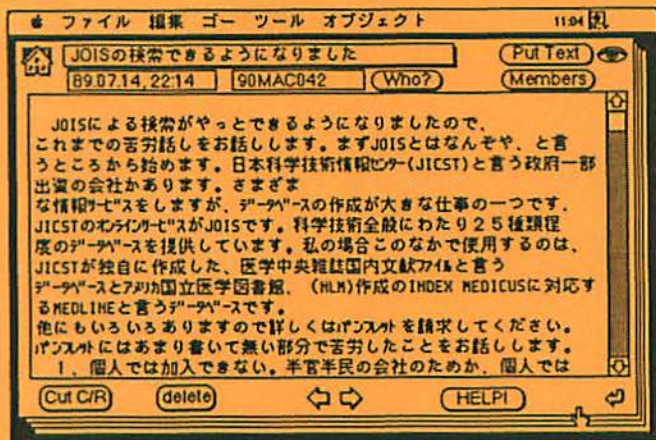
クしてみてください。上の様に表示されないときは古いバージョンです。)

また、対応しているHyperCardのバージョンは、1.1Jです。英語版のものや、1.2.2J (日本語版最新バージョン)には対応していませんので、注意して下さい。

これは、日本語の文字の扱い方が、1.1Jと、それ以降のものとは違ってHyperTalkの互換性が失われているからです。私はHyperCardが、2.0になったときに、対応させるつもりです。あしからず。

3つのカード

このスタックウエアには3種類のカードがあります。



1つめは最初に表示される一覧表カードです。(左の大きな画面)。

2つめは一覧表の中から読みたいタイトルをクリックすると表示されるメッセージカードです。(左下の画面)

3つめはめったにお目にかかりませんが、メッセージカードの右上にある、Members ボタンをクリックすると表示されるのがメンバー一覧表カードです。(右の画面)

メッセージ読み込み

メッセージ一覧表カードの右下にあるのがBBSに書かれていたメッセージを、このスタックに取り込むボタンです。

このボタンを押してメッセージを取り込む前に少し準備が必要です。

NinjaTermなどの通信ソフトの中からメッセージの部分だけを切り取って、それだけのテキストファイルを作ります。(このスタックでは単純に「◎」で始まる行を見つけると、新しくメッセージカード

を作成し、次に「◎」が来るか、ファイルが終わるまでをメッセージだと見做すようになっていきます。ですから純粋に「◎」で始まるタイトルを含めたメッセージだけのファイルを作成する必要があります。)

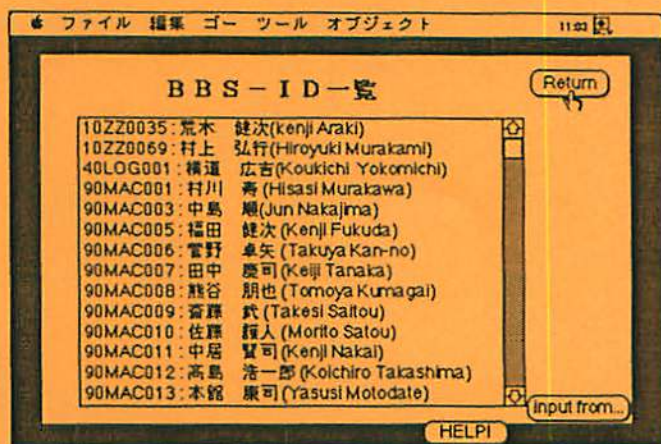
そうしてから一覧表カードの右下にある書類を書いているようなアイコンをクリックします。そうするといつものファイル選択のダイアログボックスが表示されますから、先ほどのテキストファイルを選択します。

そうすると自動的にメッセージカードが作成されます。

注意事項

メッセージが多くなると動作が遅くなります。また、一覧表の数も制限がありますので300~500ぐらいをメドにスタックを分割することをお勧めします。スタックを分割するには次のようにします。

まず、Finderで、このスタックのコ



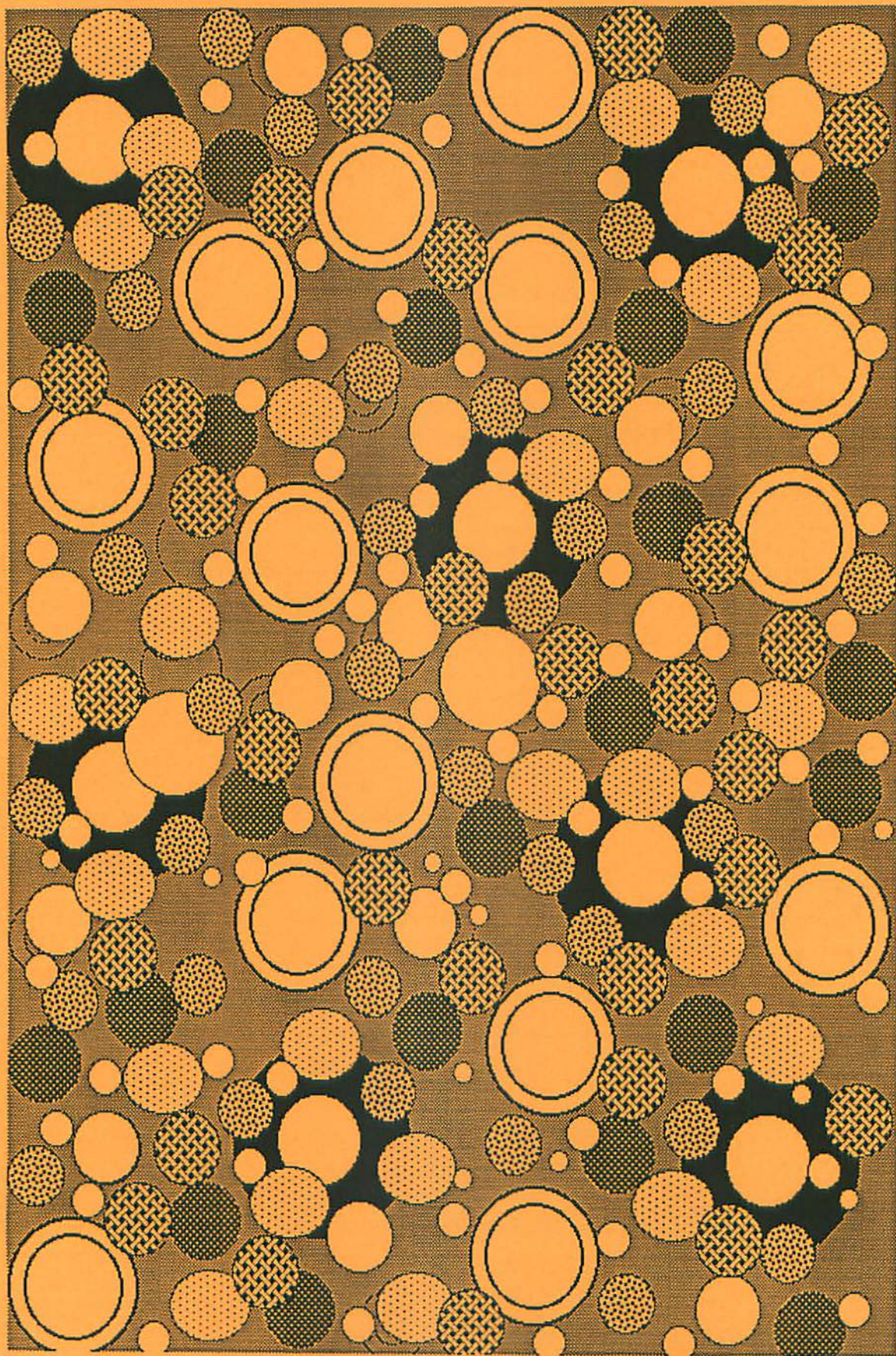
ピーを作ります。(このコピー元は大切に保管します。)

コピーされたものに適当な名前を付けてこれを開きます。そうして一覧表カードが表示されたらDelete All ボタンを押してメッセージカードを全て削除します。

メンバー一覧カードはメッセージカードのWho?ボタンの為のものですが自動的に更新されません。Members ボタンを押して一覧表を自分で更新してください。詳しくはHelpを!

お気付きの点や、自分で改良した人は、是非、BBSでお知らせください。これは会員皆のためですから。

....by 野村



by...瀬川 昌男

茶房



前田 修悦

オートバイにも色々な種類がありますが、私が乗っているのはデコボコの道を走れるオフロード・タイプと言われる奴です。ちょっと休みが取れると、テント・寝袋・コッヘル・ガスコンロ等々をバイクに積んで野宿したりします。(うーん、変な奴だ。)この間なんか、テントの中に入ったまま、コーヒーを飲もうとして手に火傷を負ってしまいました。

バイクに乗って何が楽しいのでしょうか? テントに泊まって何が面白いのでしょうか? 雨が降れば濡れるし、冬は寒いし、真夏にはダラダラ汗をかいてしまう……。自分でもよく解からないのです。そこで、過去に書きためた落書きの中からその辺を探ってみましょうか。

1988.10.8 曇り

アパート(私は以前、千葉県の流山市に住んでいました。)から上高地に向けてバイクを飛ばす。途中、交通事故を見たり(痛そう!!) 渋滞に巻き込まれたりする。渋滞と言ってもバイクは道路の脇を走れるので止まることはない。

松本市が起点の国道158号線に入れば、擦れ違う車も極端に少なくなる。目的とした上高地はマイカー規制中のため、観光バスや許可車以外は進入できない。地図を眺めて目的地をキャンプ場のある新穂高温泉に変更する。キャンプしてしまえばこっちのもので

初めまして。徳富先生に誘われて岩手MAC友の会に入会した前田です。何も知らずにノコノコと編集会議に出かけてしまい「茶房」の原稿を依頼されて、「ああ、何か罠に捕まってしまったんだろうか。」と後悔しています。「ここは息抜きのコーナーだから、何を書いたっていいんだよ。」と言われてもねえ。ううっ、困った、困った。仕方ないので、バイクとアウト・ドアの話なんぞ書いてみましょう。

ある。陽のあるうちにテントを張る。

得意のパターン(物欲しそうな顔をして「どちらから来たんですか?」という

具合に声をかける。)で飲み友達を作れば、そこは大宴会場となる。軽く御飯(レトルト農協御飯+ククレカレーをお招きに預かる。)を食べたら、焚火の明かりを囲んで酒盛する。

山の話、バイクの話、女の話。酔った勢いとは恐ろしく、酒盛仲間の一人が、昼間会った女の子達に合いに行くと言いだす。その女の子達は近くのホテルに泊まっているという。私もむりやり巻き込まれて、ホテルのロビーへついたキャンパー達。「☆☆さんと言う方はこちらにお泊まりでしょうか?」当然、フロント係りが取り次いでくれるわけもなく丁重に断られてしまう。我々の格好はジーンズやジャージをはいた、薄汚れたヨッパライ・キャンパーでしかないのだから。

九時半、酒も回り切ったので寝袋に入ってゴロゴロする。(キャンパーは寝るのが早い。そして、日の出と共に目を覚ますのである。)夜中の二時過ぎ、爪先がキリキリと痛くて目が覚める。寒くて震えが止まらない。考えてみれば、ここは穂高や槍ヶ岳という3000m級の山への登山口であり、キャンプ場自体の標高が1500mという高みにある。十月とはいえ、夜の冷え込みは厳しいわけである。仕方なく、酒を飲みなおして体を暖めるが、30分おきぐらいに目が覚めてしまう。3600円の寝袋の限界なのであろう。

(新穂高高原キャンプ場にて記す)

いつもこんな事をやっているわけではない・・・はずだ(と、思うんだけど自信が無いです)。ほんの二、三日の旅でも色々なことがあります。バイク+キャンプの場合、天候の変化は嫌でも記憶に残ります。

バイクに乗ること自体、楽しいけれど私の場合、バイクは移動のための一手段に過ぎないのではないかと思います。なんと言っても、40km/lという高燃費は貧乏な私の行動範囲を拡大してくれますし、人が歩けるところなら大体走れるという走破性の良さは山の中のキャンプ場へ行くにもラクチンです。

そして、キャンプ場に行けば誰かに会えるはずですが、それはむさくるしい山男かも知れませんが、可愛い女の子もいません。(山奥に可愛い女の子がいるというのはちょっと無理があるかな?)で、大概、声をかけます。話しの内容は安い宿の情報から、人生の事まで何でもありって感じです。

一期一会という言葉がありますが、同じ時間に、同じ場所にいるというのは、単なる偶然には思えません。何か、目に見えない不思議な力を感じます。

そんな力に導かれて、次のツーリングの計画を立ててしまう私なのでした。



私の Mac Life

by... 猿橋 浩昭



私の真暗イフ

Macと出会って約1年と半年になります。

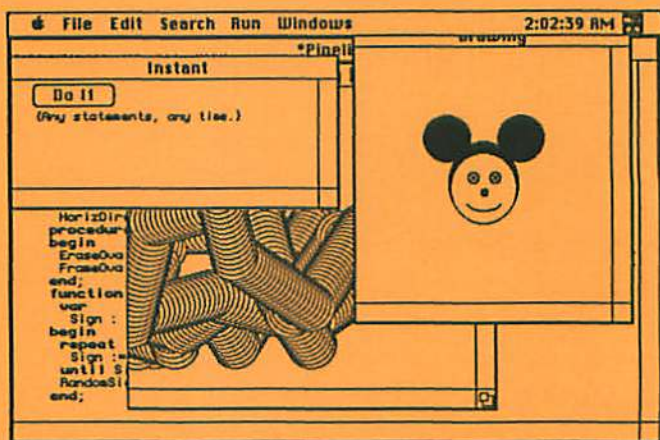
誰に相談する事もなくMacを購入したわけで、その前にも後にも不安が結構ありました。しかし、Macを立ち上げ、しばらくするとニコリ笑ったMacが現れた時の印象、感激は今でもわすれません。「あははあ、やったあ!!」、パチパチ手をたたいて喜びました。

最初の半年はIMFの存在も知らず、今まで多いとは言えないMacの本を読み漁っては、Macの情報を得ていました。「ふむふむ」とPDSのDAを、ハガキを出して入手していたものです。

コンピュータはMacが初めてではなく、東芝製のMS-DOSマシンを1年半ほど使っていたこともありましたが、それはそれだし、Macと出会い、全く次元の異なるコンピュータもあるということを知ることが出来て、高価だったけどとても良かったと思っております。

約1年ほど前に偶然杉村さんに、さわや書店二階のコンピュータ関連の書籍がある本棚の前で声をかけてもらい、それでやっとIMFの存在を知り、皆さんのお世話になっております。

そして、そのIMFの活動の重要な拠点となっている、盛岡市の実験サービスも驚きでした。パソコン通信もこんなに進歩しているとは、実際やってみるまで知らないで、私の真暗イフがそれで一新しました。



インサイドマック

さて、私のMac Lifeは実にお粗末です。プログラミングに興味があり、ToolBoxなどを勉強しようと思っておりますが、次々に出てくる新しいソフトウェアや、出合うソフトウェアに感心してはのめり込み、なかなか進みません。

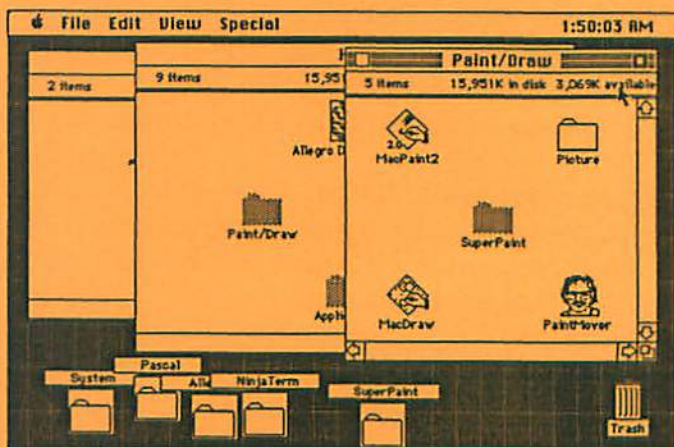
ともかく、ではその私のMac Lifeを支えてくれる素晴らしいソフトウェアのことをちょこっと。

C言語が今や多くの人達に使われ、一時の流行以来人気のある言語とはいえ

ず、アメリカやヨーロッパではプログラミングの学習用言語として、大学等では不動の地位を得ているようですが、やはりちょっと古いかな、という感のある処理系、MacPascal(インタープリタ)、

THINK Pascal(コンパイラ)という、Pascalの処理系を私は使っています。岩手大学情報工学科出身の友人も、まず学ぶならPascalだと勧めてくれたこともあります。ソフトウェア資産(ソースコードなど)も膨大です。

PascalはMacの母国語でもあり、Macのプログラムと言えば、まず第一にあげられるのがPascalです。ToolBoxも、Pascalでのプログラミングを考慮した作りになっています。どちらも開発元は同じようですが、THINK Pascalは今シマンテック社というところから販売されています。MacPascalはMac用のもっとも古いPascalシステムで、Appleが正式に販売していま



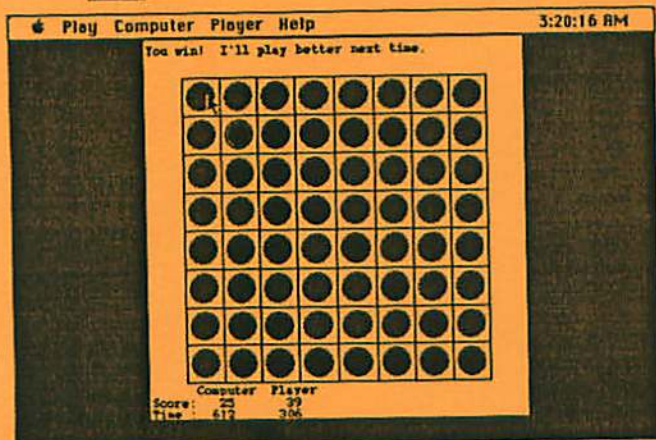
す。ToolBoxのサポートもメニュー、ウィンドウ等が使えず十分ではなく、プログラムの開発は行えませんが、インタプリタの特徴を十二分に使い、現在実行中の命令と変数の内容を同時に表示、知ることなどができ、入門にはもってこいだと思います。私も含めこれからプログラミングを勉強しようとしている人には、Macに特有なことを覚えなくても使えることでもあり、十分役に立つと思います。

本屋さんで、Pascalで書いてあるアルゴリズムの参考書を買ってきては、タイプし実行してみるのですが、弱い頭が追いつかず本ばかり増えていく今日この頃です。

THINK Pascalは、MacPascalのコンパイル版という感じであります。Macらしいプログラムの開発は勿論、Mac用でない普通のPascalのプログラムもコンパイル、実行できます。これもまた素晴らしく使いやすい、快適な処理系、処理環境であります。

MacPascalを使ったことのある人なら、すぐに使える処理系でもあり、初心者からプロを問わず使える処理系だと思います。最近は何れも実行速度が速いのでこれを使うことが多いです。

どちらのPascalも、Appleより供給されているMPWPascalなどと比べてみると、使い勝手は格段に良いので、プログラミングに興味のある方は使ってみては如何でしょうか。



便利な...

現在、Macは自宅で使うことがほとんどで、毎日のように残業があるのでクリックするのもキーを叩くのも、時間にあまり余裕がないのが残念です。様々なコードに出会いたいところなのですが、サラリーマンの辛いところでは。

さてさて、最近ではINITやcdevの数が飛躍的に増えておりますが、そのなかでもとても便利なものがありましたので、紹介させていただきます。とくに使っている方もいるかとは思いますが。



まずはINIT Picker(cdev)です。これは多数のINITやcdevとうまく付き合うためのユーティリティ(cdev)で、使用するINITやcdevを切り換えることができるものです。INITやcdevの読み込み順位をユーザーが自由に設定することもできます。爆弾が出て、INITやcdevが原因と思われる場合は、ファイル名を変えてみるとうまく動作することもあります。そんな時に便利だと思います。スタートアップの時にそれを決めることもできし、また、Skip Allで全部のファイルを読まずに立ち上げることもできて、大変便利です。



もう一つはaWinDEF(INIT)。これはウィンドウをタイトルバーの付いたフォルダーにしてしまいます。ウィンドウをたくさん開いて仕事をするときは、えへへ、やっぱり大変便利です。



さて、こんな私のMacLifeでしたが、編集担当の方には大変ご迷惑をかけてしまいました。なんとその原因はMacFlipにあるのです。MacFlipとは何か。それはなんのことはない、オセロゲーム(PDS)です。私は、日電98のオセロゲームに勝つために、ついつい熱中してしまいました。どなたか他にもMacのオセロをご存じでしたら教えてください。

では、私のMac Life、どんとはれ。



青紫色一のスカートにクリームホワイトのベチコートを描いて見てください。ある人は「自然の生み出した造形美の極致と言ったら褒めすぎだろうか」とこの花を特に絶賛しておりました。この気品の有る紫色には私もひと冬、毎晩頭に描きながら恋こがれたものでした。フィルムで表現するのに最も難しい色でもあります。

スカートはがく片で、花卉は白いベチコートの方です。褐色のオダマキ



は本種から改良されたもの。オダマキは昔、麻糸を巻いた道具の事で、花の形が似ていることからついた名前です。何時の日か色のついた会報が発行されるだろうと思いますが、各新聞があのよう美しいカラー写真を掲載する様になって来たのももう少しの辛抱ですね。十年いや五年後には可能ではないでしょうか。それまでは山に行つて実物を見てください。出来れば、その後も…。



ミヤマオダマキ

東京通信



「林檎」の元祖であり、転勤にさえならなければ、ずっと編集長をしていただけたはずだった東京時事通信社の荒木健次さんから、身の周りに起こった最新のトピックスをお送り頂きました。

韓国はとっても元気だった。韓国にはまだまだ市場が人々の生活の基本を支えているし、貧しさと豊かさが激しく入り乱れて街にはエネルギーが充満している。僕にとっては掛け替えのない友人も何人かできたように思う。そして、結局、僕が最終的にソウルの街で出会ったのは日本帝国主義の傷跡を通して日本の過去の過去であり、韓国の経済社会の中ビジネスマンを通して見た日本の姿だったような気がするのだ。

韓国に行くことになったのは特に深い理由があったわけではない。僕が東京に来てから加入したネットワークで韓国のネットワークたちとの交流シンポジウムが開催され、3泊4日のツアーがあるというので、参加してみようということになり、どうせ参加するならツアーの後に韓国を回ってこようということになって、結局、10泊11日の私としては長期（よく考えてみるとこれほどの長期休暇は会社に入ってから初めてだ）の旅行になった。僕は海外へは一回しか行ったことがないので、つつい外国と言うと本格的に構えてしまう。

僕が韓国に着いたのは11月2日の午後3時近く。丁度、飛行機の座席が窓際だったせいで、晴れ上がった上空から日本と韓国の山々、そして都市を俯瞰することができた。特にソウルは東京に比べまだスカスカしているなという感じを受けたのだが、むしろ東京が余りにも過密でひからびている、と言う方が適切なのかも知れない。そして金浦空港から雄大な流れを誇る漢河のランドスケープを楽しみながらソウル

市街へ向ったのだが、その中に入るともう大変な交通ラッシュだ。日本よりは道路事情がいいと思うのだが、地下鉄などの電車による交通機関が発達していないせいもあって混み合っている。さらに車の運転がめっぽう荒い。車線などはお構いなしで三車線に平気で四台の車が走っている。ほとんどが現代、大宇といった韓国の国産車だ。

もちろん、韓国に着いたときからの報告を逐一しようというわけではないのだから、僕の韓国旅行のエッセンスをこの辺で話したいと思う。僕は友達で紹介で韓国のある大学生と知り合うことができ、彼に韓国の色々な所を案内してもらった。その中でも印象深いのが「昌慶宮」（チャンキョングン）だ。

正面から入ると荘厳な石畳が続いて名前が覚えていないのだが、「殿」がある（いい加減でごめん）。中国の故宮を思わせるなかなかの宮殿だ。彼が説明するには23年前まではこの石畳の上に殿の床下が隠れるほどの高さから土盛りがしてあったという。そしてこの宮廷の一番の高台に日帝時代に建てられた今は蔵書館となっている建物があるのだが、それも日本提督府が建てたのだという。土盛りは当時の日本が韓国にこんな立派な建物があるのを韓国の人民に見せるわけにはいかない、と行ってやっとならしい。土盛りすることで建物も低く見える。さらにこのへん一帯は最近まで動物園だったのだそうだ。これも神聖な場所をいわば娯楽の「軽い場所にしてしまおう」という当時の日本政府の意向らしい。そして、蔵書館も全体の中では極めて不調和な景観を呈している。

そして帰りのバスに乗りながら彼の説明をまた、別のところで聞いた。それはソウル市の中にある「景福宮」（キョンボックン）の正面に日本が建てた建物が現在は国立中央博物館としてそびえている。つい最近、この建物

を存続するか、撤去するかどうかで論争があり、結局、残すことになったという。僕もこの話は聞いていたのだが、何となく日本の占領下での遺物についての議論だろう、ぐらいにしか思っていなかったのだが、そうではないのだ。つまり、日本が建てたその建物によって韓国の歴史的宮殿が遮られているのだ。逆に言うと日帝時代の日本は宮殿を隠し、日本を誇示するために今の博物館になっている建物（当時総領府）を建てたと言える。

以上の話を総合すると、結局、当時の日本は東京でいえば皇居のお堀りを埋めてその前にエンパイアステートビルを建てたようなものであったことになる（この場合、アメリカが韓国における日本の位置に比喩として用いられているが、それは我々にとってもっとも理解しやすいアナロジーだからこれを使った。もちろんそのとおりにはない）。僕はバスから中央博物館を眺めながら、インフェリアコンプレックス、日本よ、よくもやってくれるじゃないか、はっきりいって非常に不愉快であり、韓国の友人に何と云っていいかわからない、そんな憤りに駆られたのだ。

それから、韓国のビジネスマンは仕事の前後に日本語の勉強をしている。その人口は驚くほど多い。はっきり言って僕は人の国を支配するためにはもう軍事力はいらぬ、資本の力が最大のポイントだと思った。しかし、そのような「支配」に値する日本が政治やその他もろもろの力を持っているのかを考えると恐ろしい気がする。円は不当に高すぎる！

というわけで、まだまだ言い足りないところはあるのですが、そして日本人の特性＝なぜ日本人は自分のアイデンティティを常に問わずにすむのか、といったことまでふくめて言いたいことはいろいろあるのですが、そして韓国で知り合った大学生を通じて言いたいことはいくつもあるのですが、それは別の機会を利用するとして、このへんで打ち切りです。

東京からIMFの皆様へ愛をこめて。



盛岡 BBS NOW

さてさて、今回はこれしかありません。HYPER TERMでおなじみ福田さんのアクセラレータGEMINIレポートです。

何と言ってもマックの魅力はplusのデザインですが(勿論、独断ですけど)、いかんせん性能は一番下のクラスになってしまいました。ところが嬉しいことに、GEMINIをのせるとSE30よりもそしてIIcxよりも速くなるのです。速いだけではありません。プロセッサにMC68030を使うと、かなりの高い確率で、次のSystem7.0を存分に使えるようになる気配なのです。勿論、アクセラレータにはソフトのコンパチビリティをはじめさまざまな問題がつきものです。先頭をきって利用者になった福田さんのレポートは、plusユーザの皆さんの参考になるものと確信します。

レポートは、ハード編、ソフト編、補遺と続きますが、誌面の都合もあって、買い出しからハード編までをお送りします。

◎135: 90MAC005 89.10.05 13:30 Geminiレポートその1

まずはスペックから。

20M 68030,4Mbytes RAM,Co-Proなし。

先週の木、金と仙台に出張したついでに、東京まで足を延ばして、秋葉原エレクトリックパーツに行きました。オバチャンが留守番していて詳しい話が聞けなくて、しばし待ちました。通販でも良かったんですが、色々確認したいこともあって買い出しに出かけたわけです。一つはメモリーの件。わたしのPlusのメモリーは100ns 1MbytesチップのSIMMが4枚で4Mbytesでしたが、手元には256のSIMMが2枚残っていたので、Geminiに4M、マザーボードに512Kという構成でいけるかどうか。もう一つは100nsのメモリーで20MHzの030の能力を十分に引き出せるかどうか。つまり場合によると16Mの020でもいけるかもしれない、なんて考えた結果です。それから電源周りの手当ての詳細。そしてインストールのノウハウ。

ま、結論から言うと100nsのSIMMの場合、16Mの020は1wait、20Mの030は2wait、それでも030のほうが早い。で、030に決定。ちなみにエレバが付けるSIMMも100nsです。Co-Proは予算の関係と用途の絡みで付けないことにしました。Geminiに4M載せるとマザーボードのRAMは強制的に無視されますので、必要最低限のRAMさえあればいい、つまり256のSIMM2枚でOK。ただしカットしたR8,R9(150オーム)を復元しなきゃならない。で、エレバの隣で抵抗を2個40円出して買う。あとは電源。これは両端にコネクタがついた交換用のケーブルセットが6000円でしたので、横着して買う。キリークリップもありましたがTSIが20Mでは動作を保証しないらしいという話や、13000円もしましたのでヤメ。68000に被せるソケットはハンダの乗りが悪いと脅されましたが、そこは昔のラジオ少年、ハンダの腕は任してチョーダイとハッキリをかます。しめて212,040円。安くもないが高くない。買い出し編はこのぐらいでいいかな？

◎134: 90MAC005 89.10.05 16:51
Geminiレポートその2

インストール ハード編(plusユーザー保存版)

Geminiのパッケージを開けると、マニュアルが一冊、フロッピーが一枚、SCSII用のリボンケーブルが一本、ソケット1個、ジョイント用の橋の歯のようなピンが二本。そして静電防止用の導伝性ビニールの袋に入ったGemini本体が入っていました。あとは購入した電源用のハーネスと抵抗が二本、保存していた256のSIMMが2枚。道具は、マックを開けるドライバーとオープナー、そして半田ごてとニッパー、ラジオペンチ、ピンセット。いつもの手順でマックを開けて、マザーボードを取り出します。念のためにポデーアース(手首を手頃なコードでその辺にアースします)をしておけば万全でしょう。マザーのSIMMを取り外して何処かにそっとおいておきます。(68000にソケットを半田付けするのに邪魔になります)最初は150オームの抵抗を付けました。ところがこれが難しかった。ボードのスルーホールは抵抗のリードが入る程度の大きさしかありません。昔のラジオ少年は、ゆるゆるの穴に部品を付けるのは得意でしたが、このホールはリードをまっすぐに入れないと入って行かないんです。しかも最初にリードをカットしてからやったものですから、入らないこと入らないこと。今回は(無いが!)長いリードのまま、ホールの半田をリードごと取るつもりで差し込んで、それから正規に半田付けしてカットという手順がベターでしょう。

次はソケットの半田付け。ソケットを68000に被せます。サイズは68Kにピッタリ。はまった状態は68Kと一体

になったかのようです。足は長からず、短からず。接触状態もちょうどいい。あまりピッタリ過ぎると半田が回り込めないし、間隙が広いと半田でブリッジをかけなきゃならないし、短時間で半田上げするにはこれ以上いい状態はないくらい。さて半田ごてですが、MacJapanの吉田大老の記事では温度調整付きの半田ごて云々と書いておりましたが、結論はいりません。こて先の温度はデバイスのダメージには直接結びつかないのです。問題は温度と時間の積です。低い温度でも長時間熱を加えると、熱蓄積でまいてしまいます。もっとも、拡散する熱量を補充できない程度の熱量では温度上昇もありませんけど。私は20Wのセラミックを使いましたが、これはフリーな状態でこて先温度が400度を切る程度ですが、半田付けの時には熱を食われて340度ぐらいまで下がります。このぐらいの熱量で短時間で処理すると、なまじ低い温度でマゴマゴしているよりは熱総量は小さくてすみます。ただし、セラミックパッケージの68Kを使っている方は(多分いないと思うけど)要注意。これは熱に弱いのです。ピンにこて先を当てて1.2.3と数えて、半田をチョイと当てるときれいに広がって後は手直しもいりません。ピン一本当たり5秒もかからないでしょう。エレバの脅しはウソでしたナア。念のため一本ごとに68Kを息を吹きかけながら冷ましてやりましたし、隣り合ったピンは避けてあっちこっち飛びながらやりましたので全体の時間は結構かかります。

256のSIMMを2枚セットして、マザーボードはおしまい。Geminiのソケットにピンをセットします。Geminiもマザーのソケットもメスですから、このピンはジョイントとスペーサーの役割があるようです。

両側に埋まったピンは金メッキのようです。Geminiは全体的に材質も作りの精度もきちんとしています。GeminiにSIMMをセットします。Geminiは表に二枚、裏に二枚SIMMを抱きます。

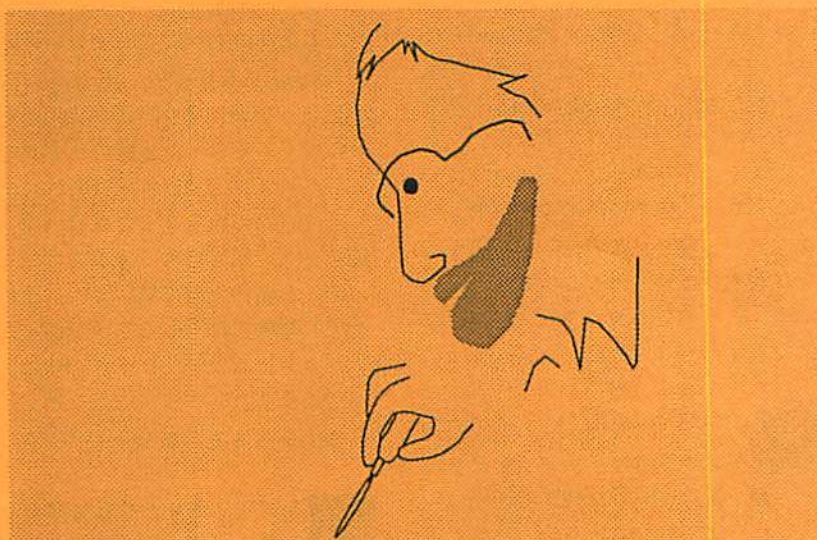
Geminiから生えたピンをマザーのソケットにセットして、上から堅くて平らな本か何かを乗せて均一に力を加えて、押し込んで一件落着。

注意を一つ。

マザーのSIMMは背の低いDIPタイプしか使えません。サーフェスマウントの背の高いSIMMはGeminiボードにぶつかります。次は付属のSCSIIケーブルをGeminiの指定のソケットにセットしてからボードをマックに戻します。おっと、その前にRAMサイズとWaitのジャンパーを確認しておきます。エレバでジャンパーをセットしてくれましたがマニュアルをみて確認しておいたほうがいいでしょう。あとで

トラブった時疑わなくてもすみます。

さて長々と書きましたが、これはPlusユーザーだけの苦勞です。SEはSEバスにGeminiを差し込めば一発完了。マザーのRAMもそのままにしておくなら手直しもいりません。(Gemini使用時にはなんの役にもたちませんが)SEの場合SCSIIバスもそのままです。Plusの場合、Geminiから引き出した高速SCSIIはケースの裏の電池の蓋のところに、今までの蓋の替わりに付きます。SCSIIケーブルはフラットケーブルですから、ケースと電池の間からうまい具合にでるんですよね、これが。ケースのネジを締めて元通り。さあ、うまく立ち上がるかな？



◎131: 90MAC005 89.10.06 20:00 Geminiレポート3

ハード編で忘れていたこと

電圧調整が必要でした。Geminiにはマックの本体に戻したとき、ちょうどキーボードのケーブルの差し込み口(向かって右下)の近辺の換気用のスリットからのぞける位置に、2つの発光ダイオードがついています。マニュアルには黄色と赤と書いてありましたが、私のは黄色と緑でした。このダイオードがどちらも点かないように、アナログボードの外側の電圧調整用のボリュームをいじる必要があります。この作業はケースに収める前にやらないといけません。ま、この電圧調整の時にマックに火を入れるわけですが、ご存じのようにマックは電源が入るとメモリーを始め、あちこちのチェックをします。このチェックが無事完了すると、はてなマークのマックがディスクを要求するのですが、ここまでOKだとハードのインストールは成功です。

「10年後」

今までは本文に入る前に必ず「前講釈」を入れていましたが、今回からはストレートに本文に入ります。その方が少しでも内容を濃くする事が出来るかも知れない、という思いつきからに過ぎないのですが、コラムの題名が題名だけにお許しくださいます様に。

今年は1980年代最後の年です。そして来年からは20世紀最後の10年に突入する訳ですが、最近よくコンピューターは今後10年間でどうなるのだろうか、と漠然と考えを巡らす事があります。勿論、それは過去の流れを振り返る事がその始まりとなる訳ですが、そうした流れを考えると（これはアップルを中心とした場合ですから念のため。他の機種的事など知りません、申し訳ないけど。）年を追うごとに加速がついているように感じるので。そう感じるのは果して私だけなのでしょうか？

70年代から80年代にかけての20年間は正にマイクロコンピューターが一気に進化した時代の様に思います。NECがTK-80という、今考えると玩具の様なキットを発売し、それと同じくしてアップルIIが第一次のマイクロコンピューター黄金期を築き上げ

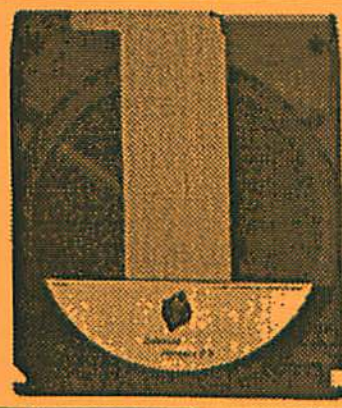


ました。それを追うようにIBM-PCの登場、そして、コマンドライン型コンピューターとしてのアップルIIの敗退。ここまでは多く語るべきものなどありはしません。PC-DOSがどうの、Pro-DOSがどうのといったも、それは猿が石を使うか棒切れを使うかという選択に等しかった様に思います。類人猿が人間に進化したかどうかは別の議論に任せるとしても、マイクロコンピューターの進化に突然変移的兆候が出現し、進化の加速度を高めた動きが胎動を始めたのがこの頃です。グラフィックスインターフェース、そうリサやマックの登場です。ただ、これは恐らく以前から考えられてはいたものの（SmallTalkなどで）商業的に保証が無かった為にその出現が大幅に遅れたのです。そうした意味ではそれを決定したジョブスはやはり並外れた洞察力と決断力の持主だったに違い無いと思います。私も含めて今までコンピューターを触った事の無い人や、それまで押入の隅に押しやるしかなかった多くのコンピューターリテラシーの人達が初めてフレンドリーにコンピューターで仕事をする様になったのです。

コンピューターが突然変移を起こして人に近づき、そして人はそれを受け入れて仕事にコンピューターを組み入れる可能性を広げました。その結果、何が生じたのでしょうか？それは人間の持つ欲望を反映したのです。「もっと、素晴らしい仕事をしたい」という欲望がコンピューターの質的向上を喚起し（例えば、より多くのメモリーや保管媒体等）それは市場に変化をもたらしました。今までの「使う人がいない」→「大量生産が出来ない」→「高価である」→「使う人がいない」という悪循環を断ち切る事に成功し、それが普及の方向で加速度を高めながら現在に至っているのではないかと思います。コンピューターの進化が

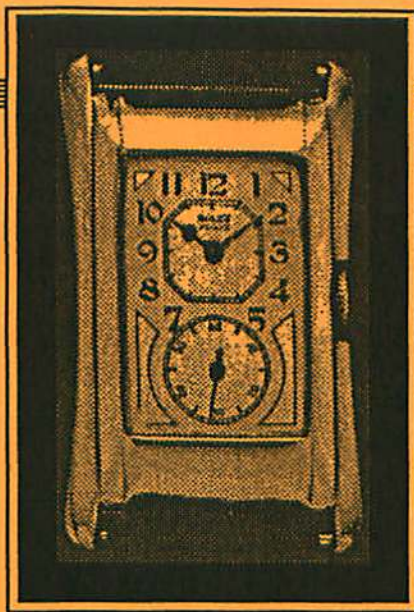
人に禁断の果実を食べさせた、といっても良いかも知れません。そして、「今」が存在しています。さて、これからどうなるのでしょうか？

林檜第4号誌上ではNeXTコンピューター発表会の模様が詳細にレポートされていました。実はその時、私も発表会に臨んでいて、感慨深くNeXTとジョブスを見守っていました。NeXTとジョブスの織りなすハーモニーを上気しながら見守っていたわけですが、今冷静になって考えると、「果してあれが本当に90年代を支えるコンピューターなのかな？」と疑問視している自分がそこにいます。じっくり考えて見て、NeXTの斬新性は一体なんのでしょうか？インターフェイス？メモリー？CPU？MOD（読み書き可能な光磁気ディスク）？これらは総て「ノー」だと思います。私が考えるところこれらは過去の技術の蓄積をもって、先に挙げた商品性を満たせば他社でも実現可能なのです。だから「ノー」です。では、どうして私は興奮したのでしょうか？それは「今までマックの世界で統合化されなかったものが一つに、しかも美しくまとまっている」からです。確かにDSP（Digital Signal Processor）を搭載したのは興味がありますが、音声の録音はマックでも可能です。ただ、それが「美しく」統合化されていないだけの話です。OSにUNIXを持ってきたところは流石ジョブスです。それは、ワークステーションの標準であり、ネットワー



ク構築に万全の備えを予感させるに十分だからです。(現在のマッキントシュのシリーズはあまりにもデータ管理のセキュリティに問題が多い)しかも、それが、マックライクなインターフェイスでカバーされている訳です。これは、パワフルで使い易いマイクロコンピュータとワークステーションのギャップを埋める、画期的な動きを予感させます。

さて真相はいかに? という感じで、先日キャノンにて実際にNeXTに触れる機会を持ちました。時間は4時間程度、でも直感を実感に焼き直すには十分な時間です。真近に見て、触れて、どうだったか? 結論から言えば、「インターフェイス環境は正にリサとマックを合わせたもの、しかし、今購入すべきでない」というものでした。永い間、(といっても3,4年ですが)マックに慣れ親しんだ私にとって、トラッシュであるブラックホールがファイルを捨てる時に回転する事や、アイコンその他の情報がきめ細かい事実等はもはや購入動機となり得ない事に改めて気づいたのです。日本語の問題を含め、ネットワーク環境でのスピード等、全てがまだ誰も体験し得ない問題であり、それに対して実験的に購入するだけの度胸が私にはありませんでした。そうするには余りにも高い買物に思えたのです。また、同行した徳富編集長はウィンドーのメリハリのなさ(マックに較べ前後のウィンドー環境が理解しにくい)をしきりに訴えておられましたが、私も同感でした。但し、今後のカラーの可能性を考えるとその欠点は大きく変わるかも知れない、とも思いましたが、NeXTにおいて、新しいパワーはアップルが築き上げたインターフェイス環境の美しい統合化とUNIXによる上級指向化であると思いますが、こうしたパワーを素人に、より扱いやすくする為にNeXTに必要な条件は「時間」なのかも知れません。それはメーカーとサードパーティーとそしてユーザーとにより、マ



ックが発育する「時間」を意味しています。マックの進化を支えた条件がそうであった様に。

このデモを体験するまで、私はマックの時のように例え日本語が走らなくても先陣を斬って未来の体験者になりたい、と考えていたのですが、デモを終えてそれを否定している自分に気づきました。仕事とコンピュータが切っても切れない関係になってしまっている自分と、その要求に応えてくれたマックの偉大さは私が考えていた以上に大きな存在でした。マックは発達と共に明らかに私の仕事に質的向上をもたらし、その「禁断の果実」のもたらす味は余りにも私にとって捨て難い魅力になっている事実を改めて実感した、という訳です。そうした結論を持って、私は考えに考えた末1990年代を迎えるにあたって、NeXTではなく、Macintosh IIciの購入を決定する事になりました。(日本語の問題についてIMFのスタッフの皆さんに。情報を頼りにしてまっせ!!) NeXTとジョブスの名譽の為に一言。「今は解らない。しかし、数年後には恐ろしくパワフルになるかも知れない得体の知れない所がある」これが、現在のNeXTに対する私の正直な感想です。

さて、来年から始まる20世紀最後の10年間に我々の接する事が出

来るコンピュータはどこまで進化するのでしょうか? 残念ながら私には予測すらつかない、という無責任な結論しか出て来ません。何故なら、コンピュータの進化は私の予測を遥かに上回るスピードで現在、進行しているからです。但し、進化するスピードのコントロールにエンドユーザーである私達が歯車の一部として機能している、という事実は厳然と存在すると思えます。同時にそうした機能が反映されねば本当の意味で私達を使い易く意味のあるコンピュータにはなり得ないのだ、という様に視点を変えて信念とする事も大切な事だと思えます。

私はコンピュータの進化を考えるとき、ある映画を観る事になっています。一体何だと思われませんか? それは「2001年宇宙の旅」で、あの中に登場するHALが自分とコンピュータの関わりを考える上で重要な位置を占めているように思えるのです...もしかしたら、皆さんもマックにああした進化を求めていますか? 逆の視点からすると、とても恐い話でもあります。(マックのPDSのサウンドファイルの中には、とてもHALの音声を録音した物が多く、アメリカ人にとってもインパクトの大きい存在の様です。あの映画は。) 次回は「コンピュータとデザイン」に関して素人講釈を加えて見たい...と思います。

では、一足お先に、「本年も本当にいろいろお世話になりました。IMFとマックフリークにとって、来年も素晴らしい年であります様に!」





余計なお世話

...by 藤村 洋

今回は、モーダルダイアログでのファイルのオープンの話です。

モーダルダイアログって何?と思われる方が多いことでしょう。しかし、マックを使っている皆さんなら必ず目にしているものです。

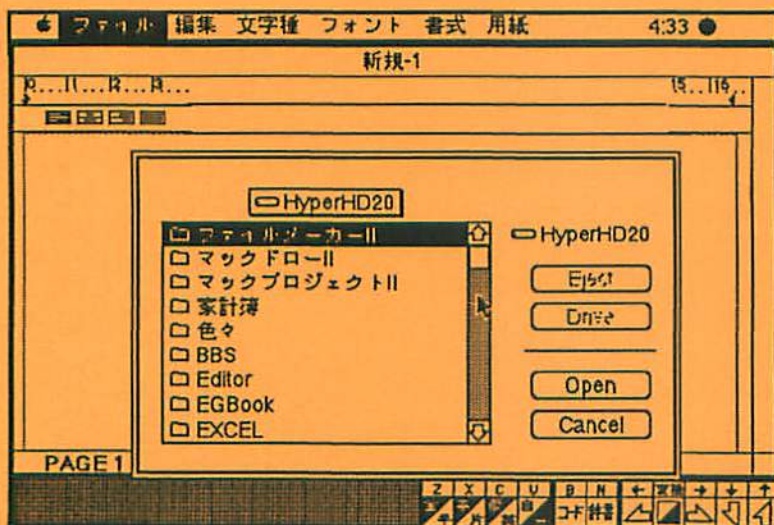
何か処理をするとき、ファイル(ドキュメント)のオープンで仕事が始まります。アプリケーションがすでに動いて、「ファイル」のメニューから「オープン」を選ぶと出てくるファイル選択用の四角の箱がモーダルダイアログです。

そのダイアログでは9個のファイルしか一度に表示できません。10個目以降にあるファイルを選ぶとき、皆さんはどうしていますか?

よく行われている方法は、右にあるスクロールバーで目的のファイルを表示してオープンするというやり方でしょう。それも素晴らしい方法ですが、もっと早い方法があるのです。今回はその方法を余計なお世話します。

- 1 例えばワープロソフトのEG-Wordを使っているとします。既存のファイルを開きたくなりました。
- 2 ファイルメニューからオープンを選びモーダルダイアログを出しました。(図1)
- 3 開きたいのは、StarNightと言うフォルダーです。その名前はダイアログのうしろの方にあり、見えません。
- 4 そこで、英数入力モードにして、S とキータッチします。リターンキーは押しません。
- 5 すると、あら不思議、図2のようになり目的のフォルダーやファイルが選択され反転表示になります。
- 6 あとは、そのままリターンなりダブルクリックなりオープンを選択するなりすればいい訳です。便利でしょう。

図1



S だけでなく、すばやくST や STA とキーインしても勿論OKです。入られた文字に合わせてファイルを探します。これは、頭文字の同じファイルがたくさんあるときに有効ですね。

ここで、研究心旺盛な皆さんは漢字で探せるのかと思われることでしょう。以下のとおり大丈夫ですよ。この例では、日本語入力ソフトのEG-Bridgeを使って途中までのファイル名「マックド」を入れて探しています。パッチリでしょう。(図3) さすが我がMacintosh! でも、このように日本語入力するくらいなら、スクロールバーを使ったほうが早いですよね。:-)

図2

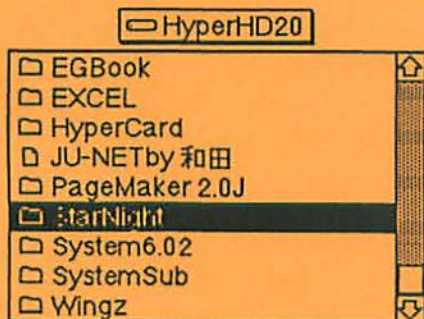
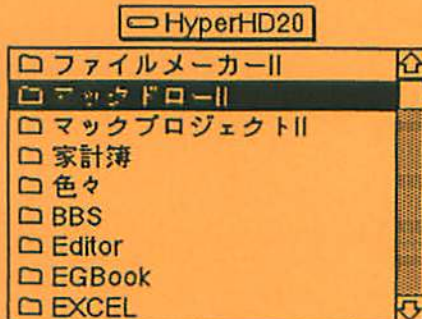


図3



お知らせ

先ごろ盛岡で開催されました、MMMの記念品として作られた文鎮にでまだ少々残りが有ります。

形はMacPlus型、大きさは鶏卵大の黒い南部鉄器です。

値段：900円

お申し込みは、葉書またはE-mailにて野村さんまで。

○次号は、一周年記念号となりますので、「林檎」に対するご意見を募集しております。お手紙でのご寄稿でも、受け付けております。

○会員名簿の原稿、受け付け続行中です。宜しくお願ひいたします。これもお手紙でも構いません。

編集後記

今回もNTX-Jが使えなくなり、皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。

あまり関係の無い話ですが、偶然にも釧路のユーザー会の例会に参加させていただき、集まっていた皆さんのパワーに圧倒されて帰って来ました。我々の会もグワンバラねば...By 野村

少しは、挿絵(写真)が見やすくなったでしょうか?今まで気付かなかったことが編集長とのディスカッションで、少し見えてきました。編集長が、記念号ではライノでやりたいと言う気持ちが解ります。(高橋)

早いもので、もう6号。1年もやったとは思えません。楽しい1年でした。皆さんもいっしょにわいわいやりましょう。(藤村)

一年目の最後の号で、久しぶりに編集作業に参加しました。もしかしたら、1号以来だったような気がします。編集委員の皆さん、ご免なさい。次からも必ず参加したいと思います。と、口先だけで約束したいと思ったら、「嘘」という声が聞こえてきそう。まずいなあ。佐々木

ただいま1:45ですが、今回は意外と早く編集会議が終わりそうです。毎回

いろんなことを試して編集しておりますので、非常に参考になりますよ。こんなに楽しい編集会議に皆さんもたまに参加されてはいかが!

熊谷

とうとう一年やってしまった。また来年もやりたいな、(お許しが有ればですが……) 照井

何とか無事に帰りたい。徳富でした。

この一年編集に参加していろいろ勉強になりました。皆さんも編集に参加してみてもどうでしょうか。(杉村)

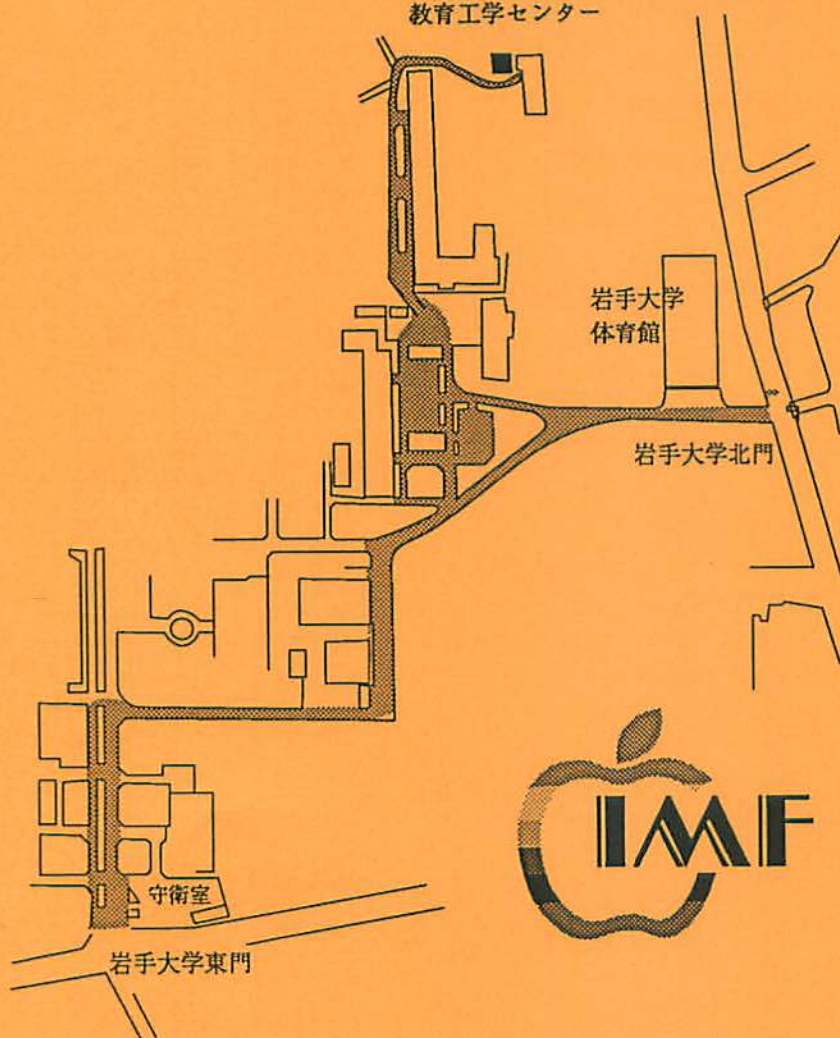
今回は編集長の提案で写真のスクランニングを工夫して、かなりの進歩があり驚きました。何事もトライしてみるものですね。もう少しDTPを勉強しなくてはと思いながら。佐藤



会員名簿

| | | |
|--------------------|------|----------|
| Dick Harry | 盛岡市 | |
| Evelyn Harry | 盛岡市 | |
| Richard L. Lammers | 盛岡市 | |
| 浅田 昌徳 | 和賀町 | 90MAC035 |
| 浅沼 清智 | 花巻市 | |
| 浅野 昭治 | 花巻市 | |
| 荒木 健次 | 東京都 | 10ZZ0035 |
| 安保 淳一 | 盛岡市 | |
| 伊崎 誠一 | 盛岡市 | |
| 大河原 清 | 滝沢村 | 90MAC021 |
| 沖野 寛 | 二戸市 | 90MAC044 |
| 小沢 徹 | 盛岡市 | 90MAC029 |
| 桂川 茂彦 | 盛岡市 | |
| 兼平 信一 | 盛岡市 | 90MAC055 |
| 豊沼 まゆみ | 盛岡市 | 90MAC051 |
| 賀野 卓矢 | 盛岡市 | 90MAC006 |
| 工藤 道徳 | 盛岡市 | |
| 類谷 朋也 | 盛岡市 | 90MAC008 |
| 香城 孝康 | 盛岡市 | 90MAC016 |
| 小松 寿夫 | 北上市 | |
| 斎藤 武 | 盛岡市 | 90MAC009 |
| 斎藤 怜 | 盛岡市 | |
| 佐々木 幸司 | 盛岡市 | 90MAC033 |
| 佐々木 俊光 | 厩沢町 | |
| 佐々木 文雄 | 磐波町 | |
| 佐藤 謙人 | 盛岡市 | 90MAC010 |
| 猿橋 浩昭 | 北上市 | 90MAC043 |
| 渋谷 誠 | 盛岡市 | 90MAC047 |
| 白石 隆 | 都南村 | 90MAC039 |
| 菅原 健蔵 | 盛岡市 | |
| 杉村 栄一 | 盛岡市 | 90MAC036 |
| 鈴木 晃光 | 盛岡市 | |
| 鈴木 卓 | 軽米町 | |
| 瀧川 昌男 | 盛岡市 | |
| 嶋崎 博和 | 盛岡市 | |
| 高橋 晃 | 盛岡市 | 90MAC031 |
| 高島 浩一郎 | 盛岡市 | 90MAC012 |
| 武元 伸次 | 盛岡市 | |
| 田中 慶司 | 盛岡市 | 90MAC007 |
| 谷口 和美 | 盛岡市 | 90MAC056 |
| 谷藤 幸夫 | 盛岡市 | 90MAC040 |
| 岡井 恒 | 盛岡市 | 90MAC054 |
| 岡井 秀夫 | 花巻市 | 90MAC026 |
| 徳富 互 | 花巻市 | 90MAC015 |
| 中居 賢司 | 盛岡市 | 90MAC011 |
| 中島 順 | 浪山市 | 90MAC003 |
| 西島 光茂 | 盛岡市 | 90MAC017 |
| 根本 聡彦 | 八戸市 | 90MAC042 |
| 野村 行憲 | 盛岡市 | 90NOMURA |
| 日比野 利彦 | 都南村 | 90MAC052 |
| 平野 三千代 | 盛岡市 | 90MAC019 |
| 福田 健次 | 盛岡市 | 90MAC005 |
| 藤村 洋 | 盛岡市 | 90MAC028 |
| 本多 健一郎 | 盛岡市 | 90MAC025 |
| 米谷 剛美 | 盛岡市 | 90MAC037 |
| 前田 修悦 | 盛岡市 | 90MAC059 |
| 真館 貞治 | 盛岡市 | |
| 松倉 拓次 | 都南村 | 90MAC032 |
| 三浦 一之 | 盛岡市 | |
| 三浦 利昭 | 浄法寺町 | 90MAC045 |
| 三浦 古純 | 盛岡市 | |
| 三田 光男 | 盛岡市 | |
| 村上 誠一 | 盛岡市 | |
| 村上 弘行 | 盛岡市 | 90MAC049 |
| 村川 寿 | 柏市 | 90MAC001 |
| 望月 善次 | 盛岡市 | |
| 本館 廣司 | 花巻市 | 90MAC013 |
| 森 貞吉 | 盛岡市 | |
| 山田 真希 | 盛岡市 | 90MAC053 |
| 山本 淳 | 千歳町 | 90MAC034 |
| 吉田 新二 | 盛岡市 | 90MAC020 |
| 吉田 実 | 盛岡市 | |
| 吉村 弦 | 盛岡市 | |
| 和田 政男 | 矢巾町 | |

IMF例会開催地
岩手大学
教育工学センター



「林檎」6号は...

ASLTalk
ByWord
Color Magician
Digital Darkroom
EG-Bridge
EG-Word
Freehand
Illustrator
MacPaint
MacVJE
NinjaTerm
PageMaker
QuarkXPress
SuperPaint
Sweet JAM
TurboJip
TurboWriter

等で作ったものをPageMakerでまとめて、LaserWriter II NTX-Jでプリントしました。

1989/12/7 創刊第6号
発行 岩手Mac友の会
代表 野村行憲
盛岡市月が丘 1-1-36

非売品